

神戸港港湾審議会第23回計画部会 議事概要

日 時 平成26年7月14日(月) 15:00～

場 所 神戸市役所1号館28階 第4委員会室

出席者 別紙参照

○開 会(総務課長)

○司 会(総務課長)

資料の確認

○出席状況報告(総務課長)

委員総数10名のうち10名が出席。神戸港港湾審議会が有効に成立することを確認。

○委員紹介(総務課長)

○審議会の公開について(竹林部会長)

審議会を公開することを決定

○審議事項説明(計画課長)

(港湾計画)

・中突堤・高浜地区(旅客船埠頭計画)

・新港東ふ頭地区(土地利用計画)

○事前協議

部会長 : 審議に先立ち、部会長より各委員の意見を伺いたい事案がある。

新港東ふ頭地区の審議事項に対して、反対意見が出ている。部会長としては、港湾計画とは港湾管理者が土地の利用などについて意思を示すものであることなどから、同意見に縛られることなく、審議を行うべきと考えるが、どうか。

委員 : 港湾計画の手続きというのは港湾法や、審議会条例で定まっている。意見があったとしても、意見は意見として、審議は審議であり、部会長の発言のとおり港湾審議会として審議すればよいと思う。

委員 : 港湾計画は港湾の将来的な姿を議論するもので、意見について議論する場ではない。部会長の言われたようにしてもらいたい。

委員 : 他委員と同意見になるが、部会長の発言のとおりでよいと考える。

部会長 : それでは他に意見がなければ、本審議会では反対意見にとらわれることなく大所・高所から審議を行っていただきたい。

○質疑応答

委員 : 新港東ふ頭の変更箇所について、周辺の土地を見ると道路に面しているところは交流厚生用地が多く、こういう形で利用する方が神戸港の活性化に資するとの印象を受ける。

事務局 : 交流厚生用地は賑わいを促すものであり、さらに港湾労働者の福利厚生やレクリエーションということも必要であることから、交流厚生用地に変えることが良いと判断した。

- 委員 : 旅客船については、乗客だけでなく、多くの方が見学にくるという面もあり、計画を進めてほしい。
- 事務局 : 船社や市民の方から中突堤に大型の客船が入ると、それが景色を作り出すことにもなり、良いという話を聞いている。また中突堤と新港第4突堤の両方があるということがポートセールスの強みになると考えており、客船誘致に弾みをつけていきたい。
- 委員 : 横浜の大さん橋は素晴らしく、映画のロケでも使われるなど賑わいを醸し出しており、うらやましく感じている。
今回の中突堤の旅客の待合所について、整備計画は何か考えているのか。
- 委員 : 中突堤に7万トンの船が入るのは非常に良いことだが、旅客の数も多く、スムーズにおもてなしするため、ターミナルの利用やバスの対応など、旅客ができるだけ待たないようにする必要があると思う。市ではどのように考えているか。
- 事務局 : 大型船のターンアラウンドでは1日4000人ほどの乗降数があり、その対応についてはCIQなど少し遅れ気味にはなっている。中突堤におけるバスの対応は、隣のメリケンパーク駐車場などで対応可能と考えている。
船社はロケーションの良い中突堤と、交通の便が良いポートターミナルを天秤にかけている状況もあり、目下のところはポートターミナルの改修を先行して進めている状況である。
- 委員 : 旅客船はすぐに大きくなる。7万トンもそのうち小型の部類になり、今、大型と言っている13万トンくらいが標準になる可能性がある。より大型の船にも対応できるように中突堤の方向性を定めて検討してもらえればありがたい。
神戸港の西側はもうコマーシャルポートではなく、アミューズメントポートと考えており、その方向に進むことには賛成である。東側がコマーシャルポートになって充実しており機能分担がうまくされていると考える。
クルーズでは、着くところは素晴らしい景色やアトラクションがあるところであり、神戸の場合は中突堤にその中心があると思う。
- 部会長 : 昨今、クルーズ需要は東アジアから多くなっており、10万トンクラスも普通になっているので、これに神戸港（の中突堤）で対応できないのは、あまりよろしくないと思う。賑わいを、みなとの側で演出していただきたいと思う。

以上